愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2022年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	総合演習Ⅱ		
担当者(Instructors)	杉谷 正次	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

情報化が急速に進展する現代社会において、情報化社会についての理解を深めていくには、技術的な側面のみならず様々な視点からのアプローチが必要不可欠となります。近年「ビッグデータ」という言葉をよく耳にしますが、こうしたビッグデータを扱う能力は、コミュニケーション能力や英語力などと比べても引けをとらないほど、重要なスキルとなっています。 そこで本演習では、わが国の情報技術の発展を概観したうえで、「統計データ活用術を学ぶ」を基本テーマとして、現代社会を生き抜くために必要な統計スキルを身につけます。さらにそれらのデータを有効活用することができる能力も養います。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で行います。グループワークを積極的に取り入れ、ディスカッションをします。 実施方法の詳細については、初回授業で案内します。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	シラバスをもとに本演習の目的と内容、授業の進め方等について説明する。	□
第2回	研究テーマの検討	各自が研究テーマを設定する。	□
第3回	研究テーマに関する研究（1）	研究テーマに関する文献・資料・データを収集する。	□
第4回	研究テーマに関する研究（2）	研究テーマに関する文献・資料・データを収集する。	□
第5回	研究テーマに関する研究（3）	研究テーマに関する文献・資料・データを収集する。	□
第6回	研究テーマに関する研究（4）	収集した文献・資料・データについて分析し、考察する。	□
第7回	研究テーマに関する研究（5）	収集した文献・資料・データについて分析し、考察する。	□
第8回	研究テーマに関する研究（6）	収集した文献・資料・データについて分析し、考察する。	□
第9回	研究テーマに関する研究（7）	各自が選択したテーマ（データ）について、レポートを作成する。	□
第10回	研究テーマに関する研究（8）	各自が選択したテーマ（データ）について、レポートを作成する。	□
第11回	研究テーマに関する研究（9）	各自が選択したテーマ（データ）について、レポートを作成する。	□
第12回	レポート報告（1）	各自が作成したレポートを輪番で報告し、全メンバーで討論する。	□
第13回	レポート報告（2）	各自が作成したレポートを輪番で報告し、全メンバーで討論する。	□
第14回	研究発表	演習発表会で研究発表をする。	□
第15回	まとめ	後期の授業を総括する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習（予習）として、文献・資料・データ収集などの調べ学習をしておく（毎回2時間程度）。 また事後学習（復習）として、前回の授業の振り返りをする（毎回2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

提出された課題・レポート・レポート報告については、教員およびゼミ生相互で講評を行うなど、全体で共有する機会を持ちます。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)

知識・技能	◇ 2019全学共通DP1	現代社会に関連した事象を分析することによって、統計に関する専門知識および技能を身につけるとともに、それを活用することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019全学共通DP2	各自が選択したテーマ（データ分析など）について幅広く思考し、その課題について多面的な判断し、他者に自分の考えを表現、発信することができる。
主体性	◆ 2019全学共通DP3	本演習で学んだ知識・技能・思考力・判断力・表現力をもとに、主体的に他者と協働して問題解決することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			30%	70%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

成績評価については、提出された課題、レポートの完成度、レポート報告の内容をもって評価します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	洋泉社MOOK『最強ツールとしての統計データ活用術』洋泉社	
2		
3		
4		
5		